

**「園芸用施設の設置等の状況（R8.3月公表）」（概要）**  
**（園芸用施設：令和5年11月～令和6年10月）**  
**（農業用廃プラスチック：令和6年4月～令和7年3月）**

本資料は、施設園芸作物の増進に関する施策を講じるために、各都道府県が保有する園芸用施設の設置等に関する情報を基に作成したものです。情報収集に当たっては、合理的かつ効率的な実施の観点から、都道府県、市町村等の地方公共団体が通常の業務の中で把握している情報を収集しているため、一部情報を欠いている項目がありますのでご注意ください。

## 1 園芸用施設の設置面積

**ガラス室・ハウスの設置実面積は37,278 haで、1.7%減少。**

園芸用施設の設置実面積は37,278 haで、令和4年から1.7%減少した。そのうちガラス室は6.8%増加し1,578ha、ハウスは2.0%の減少で35,700haとなった。（表1-1）。

園芸用施設の被覆資材別の構成比は、ガラス室が4.2%で、塩化ビニルフィルムが32.6%（12,144 ha）、ポリオレフィンフィルムが53.5%（19,939 ha）となり、ポリオレフィンフィルムと塩化ビニルフィルムで約9割を占めた（表1-2）。

表-1-1 園芸用施設被覆資材別設置実面積（単位：ha）

種 類	令和6年	令和4年	前回は
ガラス室・ハウス	37,278	37,907	98.3%
ガラス室	1,578	1,478	106.8%
ハウス	35,700	36,430	98.0%

※ 四捨五入により計が合わない時がある。  
（以下の各表について同じ）

表-1-2 園芸用施設の被覆資材別構成比

種 類	令和6年	令和4年	構成比	
ガラス室	1,578	1,478	4.2%	
ハウス	塩化ビニルフィルム	12,144	13,361	32.6%
	ポリオレフィンフィルム	19,939	20,037	53.5%
	硬質プラスチックフィルム	1,864	1,673	5.0%
	その他	1,753	1,359	4.7%

## 2 施設園芸の品目別栽培延べ面積

**施設園芸の栽培延べ面積は、1.4%増加。**  
**上位3品目はトマト、ほうれんそう、いちご**

園芸用施設における作物の栽培延べ面積は令和4年から1.4%増加し、49,824 haとなった。作物別では、野菜用が38,087ha、花き用が6,234ha、果樹用が5,503haとなっており、野菜用が全体の76.4%を占めた（表2-1）。

表-2-1 園芸用施設における栽培延べ面積（単位：ha）

区 分	令和6年	令和4年	前回は
計	49,824	49,132	101.4%
野菜	38,087	37,963	100.0%
花き	6,234	6,318	98.7%
果樹	5,503	4,851	113.4%

また、施設野菜の栽培延べ面積の上位品目のうち、最も多かったのはトマトの6,074haで施設野菜の15.9%を占め、次いで、ほうれんそうが5,583haで同じく14.7%、いちごの3,171haで同8.3%と続いた(表-2-2)。

表-2-2 品目別施設野菜栽培延べ面積 (単位: ha)

区 分	令和6年	令和4年	前回比
野 菜 計	38,087	37,963	100.0%
トマト	6,074	6,355	95.6%
ほうれんそう	5,583	5,690	98.1%
いちご	3,171	3,283	96.6%
きゅうり	3,049	3,069	99.3%
メロン	2,353	2,333	100.9%
すいか	1,934	1,714	112.8%
ねぎ	1,765	1,706	103.5%
なす	1,046	1,032	101.4%
アスパラガス	1,041	990	105.1%
ピーマン	958	927	103.4%
にら	714	721	99.0%
レタス	788	682	115.7%
しゅんぎく	517	492	105.0%
その他	9,094	8,971	101.4%

### 3 省エネルギー設備等の設置状況

園芸用施設の省エネルギー設備等の設置状況は、加温設備のあるものが令和4年から3.0%減少の16,162haとなったが、日射量等に基づく高度環境制御装置のあるものは同7.3%増加の1,397ha、炭酸ガス発生装置のあるものは同10.5%増加の2,379ha、2層以上のカーテン設備のあるものは同1.8%減少の4,973haとなった(表-3-1)。

表-3-1 省エネルギー設備等の設置実面積 (単位: ha)

区 分	令和6年	令和4年	前回比
ガラス室・ハウス設置面積	37,278	37,907	98.3%
① 加温設備のあるもの	16,162	16,676	97.0%
② ①のうち日射量等に基づく高度環境制御装置のあるもの	1,397	1,302	107.3%
② 炭酸ガス発生装置のあるもの	2,379	2,153	110.5%
③ 2層以上のカーテン装置のあるもの	4,973	5,063	98.2%
④ 換気扇・循環扇のあるもの	6,974	7,326	95.2%

加温設備を種類別にみると、石油利用等が13,741haで加温全体の84.8%を占めており、次いで、ヒートポンプが1,192haで7.4%、地下水等利用が679haで4.2%、LPガス・LNGが400haで2.5%木質系バイオマスが119haで0.7%、の順となった(表-3-2)。

表-3-2 加温設備の種類別設置実面積 (単位: ha)

区 分	令和6年	構成比
合 計	16,195	100%
石油利用等	13,741	84.8%
ヒートポンプ	1,192	7.4%
地下水等利用	679	4.2%
LPガス・LNG	400	2.5%
木質系バイオマス	119	0.7%
産廃・都市ゴミ	12	0.0%
太陽熱利用	4	0.0%
そ の 他	48	0.3%

※1棟に2種類以上の加温設備がある場合は、両方の区分に同じ面積を計上しているため、本表の合計値と表-3-1の加温設備のあるものの値は一致しない。

### 4 養液栽培施設の設置

養液栽培施設の設置実面積は1,557haで令和4年に比べて3.4%増加した。

表-4 養液栽培施設のあるもの (単位: ha)

区 分	令和6年	令和4年	前年比
設置実面積	1,557	1,505	103.4%

## 5 施設野菜における花粉交配用蜂の利用状況

施設野菜における蜜蜂の利用延面積は6,031haで令和4年に比べて0.2%増加した。品目別では、いちごが2,815haで同0.6%増加、メロンが1,748haで同6.8%の減少となった(表-5-1)。

また、マルハナバチの利用延面積は、3,049haで令和4年に比べて9.0%減少した。品目別では、トマトが2,824haで同1.4%減少、その他が226haで同53.6%減少した(表-5-2)。

表-5-1 施設野菜における蜜蜂の利用延べ面積(ha)

区分	令和6年	令和4年	前回比
合計	6,031	6,017	100.2%
いちご	2,815	2,799	100.6%
メロン	1,748	1,875	93.2%
その他	1,468	1,342	109.5%

表-5-2 施設野菜におけるマルハナバチの利用延べ面積(ha)

区分	令和6年	令和4年	前回比
合計	3,049	3,350	91.0%
トマト	2,824	2,863	98.6%
その他	226	487	46.4%

## 6 農業用廃プラスチックの排出及び処理状況

農業用廃プラスチックの排出量は79,962tで令和4年に比べて4.8%減少した。材質別では、ポリオレフィンフィルムが40,794t、次いで塩化ビニルフィルムが18,318tで全体の73.9%を占めた(表-6-1)。

処理状況については、再生処理が55,123tで全体の68.9%を占めており、焼却処理が11,180tで同14.0%、埋立処理が7,120tで8.8%と続いた(表-6-2)。

表-6-1 農業用廃プラスチック排出量 (単位：t)

区分	令和6年	令和4年	前回比	
①フィルム	塩化ビニルフィルム	18,318	19,768	92.7%
	うち園芸用	16,244	17,347	93.6%
	ポリオレフィンフィルム	40,794	46,217	88.3%
	うち園芸用	35,655	39,167	91.0%
	その他プラスチックフィルム	8,409	7,593	110.7%
	うち園芸用	4,938	3,650	135.3%
フィルム計	67,521	73,578	91.8%	
うち園芸用	56,843	60,164	94.5%	
②その他プラスチック	12,441	13,519	92.0%	
うち園芸用	5,771	5,567	103.7%	
合計(①+②)	79,962	87,097	91.8%	
うち園芸用	62,601	65,731	95.2%	

表-6-2 農業用廃プラスチック処理量 (単位：t)

区分	令和6年	令和4年	構成比
①再生処理	55,123	60,943	68.9%
②埋立処理	7,120	9,369	8.8%
③焼却処理	11,180	10,227	14.0%
④その他	6,539	6,537	8.2%
合計(①+②+③+④)	79,962	87,076	100.0%

注：「その他」には農家保管や有価引取、災害廃棄物等が含まれる。